



作家・ドイツ在住 川口マーン恵美

ドイツ最高峰のツークシュピッツェ

「山と海とどちらが好きか？」と問われれば、迷わず「山」と答える。

木々に囲まれたしっとりとした湿り気のある清廉な空気、高い梢の間から降り注ぐ木漏れ日。私がそれらに惹かれるようになったのは、いったいいつ頃のことだろう。

ドイツの南東、オーストリアとの国境の近くにガルミッシュ＝パルテンキルヒェンという町がある。7月中旬、家族総勢14人が集合し、そこで1週間を過ごした。町のどこにいても、あたかも壁のようにアルプスの連山が目飛び込んでくる。日本の山とは違い、ゴツゴツとした岩肌の、地中から迫り出したような険しい山々だ。そして、その後ろの雲の合間にちらっと姿を表すのが、ドイツ最高峰のツークシュピッツェ（標高2963メートル）。山好きの私がこの町を選んだ理由がこれだった。ツークシュピッツェの麓までは、車でわずか15分ほど。



ちなみに、この町の名前がやたらと長いには理由がある。ヒトラーが、1936年の冬季五輪をパルテンキルヒェンに誘致しようとしたところ、人口が五輪の規定に達していなかったため、無理やりお隣のガルミッシュと合併させたのだそうだ。これで誘致に成功。

36年という、のちにナチのプロパガンダ・イベントだったと批判されたベルリンの夏季五輪が開かれた年でもある。しかし、一国で同年

に夏冬の五輪を開催できたのだから、ナチス・ドイツの政治力と経済力はすでに強大であった。

ヒトラーはどちらの五輪にも莫大^{ばくだい}な予算を惜しみなく投じ、各種の競技場や施設はトントン拍子で建設された。五輪の成功はドイツ経済の発展に大いに貢献しただけでなく、技術力や組織力を全世界に強烈に印象付け、「平和で豊かな近代国家」というポジティブなイメージをアピールすることにも役立った。

その時のスキージャンプ台は、今なお使われており、その横に立つと90年の年月が目に見えるようで感慨深かった。当時は日本選手もこのジャンプ台から飛び、7位という輝かしい成績を収めた。

3つの世界記録

前述のドイツの最高峰、ツークシュピッツェには、2017年にリプレイスされたロープウェイでほぼ山頂まで上がれる。アルプス山中という極限の環境で、土木技術の粋を極めて完成したと言われるこのロープウェイは、全長4467



ツークシュピッツェのロープウェイからの眺め（筆者撮影）